

<国語の調査結果に見られる特徴と現状>

問題形式では「記述式」、内容では「書くこと」が県平均や全国平均を大きく上回っている。しかし、同じ誤答が集中している問題をピックアップしてみると、「記述式」や「書くこと」が多い。特に複数の条件を満たして、まとまった文章を書くことが難しい。また、平均点が全国や千葉県を大きく上回っていても、正答率はそれほど高くないので、今後も改善していく余地はある。

また、主語や修飾語の問題でも誤答が多く見られた。3年生で学習する内容だが、その時のみ指導するのではなく、4～6年生でも継続して指導していく必要がある。

<算数の調査結果に見られる特徴と現状>

問題形式では「記述式」、内容では「数と計算」、「図形」が全国平均を大きく上回っている。しかし、全国平均を上回る「数と計算」の問題で同じ誤答が集中していた。式の意味を説明したり、複数の式から答えを導いたりする問題に誤答が多く見られた。他にも問題に合った式や答えを選択できないものも見られる。

例えば、問題をよく理解せず、安易に大きい数を小さい数でわったり、小さい数を速いと選択してしまったりしている。(1分と5分なら1分の方が速いが、分速10mと分速50mなら分速50mの方が速い)

いずれも問題をよく理解し、何を求めなければならないか見通しを持つことが重要である。

<学校質問紙調査の結果に見られる特徴と現状>

教科指導、授業改善、生徒指導は良い。昨年度から週1回、下校時刻を早めて「教材研究日」を設けたことにより、教職員が学年内で指導計画を細かく立てたり、重点的に指導したいポイントについて話し合ったりすることができている。

家庭や地域との連携は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、従来通りの活動ができなくなった。しかし、1年半経って新たな方法が少しずつ見えてきたことにより、形を変えてできることが増えてきた。

<児童質問紙調査の結果に見られる特徴と現状>

基本的な生活習慣が整っていて、何事にも前向きにとらえている児童が多い。地域の行事にも積極的に参加し、友達と協力して活動を行うことができる。全体的に肯定的な回答が多く、児童の素直さを伺うことができる。

その一方で「学校が楽しい」という質問に対して否定的な回答をしている児童がいる。そのため、割合ではなく個人に目を向け、丁寧に支援していく必要がある。

<これからの具体策>

学習面では、指定された条件を全て満たし、文章が書けることが目標となる。主に国語に関することだが、算数においても、複数の式が必要な問題に誤答が見られたので、国語の力を伸ばしながら算数の力も伸ばしていきたい。

(授業における具体策)

「書く」活動に取り組む際に重点的に指導していく。(複数の条件を提示する)

①段落構成②文体(文末表現)③必ず入れるべきことを提示する。

敢えて複数条件を提示した上で、それらを満たしているかどうか確認し、いくつできているか評価しながら、できていないものについては手直しを加えていく。

(教員の研修体制における具体策)

昨年度から始めた教材研究日(今年度の金曜日5校時日課)に加え、今年度から授業改善チェックシートを県教委のモデルを参考に自校で作成したものを活用している。国語や算数等の教科指導だけでなく、タブレット端末の活用を進める上でも活用していく。今後も児童の実態に合った指導ができるように、教材研究の時間を確保していく。